第１回防府市農福連携検討会議　会議録（要旨）

■開催日時・場所

令和３年１２月１６日(木)　午前１０時から午前１１時まで

防府市役所１号館３階南北会議室

■次第

１　健康福祉部長あいさつ

２　委員自己紹介

３　会長、副会長の選出

４　議事

（１）農福連携事業について

（ア）国の農福連携等推進ビジョンと取組事例

（イ）県の農福連携マルシェ開催事業とモデル事業

（ウ）市の農福連携モデル事業

（エ）意見交換

（２）その他

■出席者名簿（敬称略）

【区　分】	【所属団体名】	【氏　名】
会　長	防府市愛光園	伊南　孝之
副会長	デイサービスセンター　新田の楽さん家	森　泰樹
委　員	心促福祉作業センター	能野　伸治
委　員	夢かれん	津田　隆志
委　員	デイサービスセンター　おおひらの里	河田　珠美
委　員	切畑ファーム	原田　道昭
委　員	山口県農業協同組合防府とくぢ総括本部	久門　浩之

■会議録

１　健康福祉部長あいさつ

２　委員自己紹介

３　会長・会長代理の選出

会長に伊南委員、副会長に森委員を選出。

４　議事　（防府市農福連携検討会議設置要綱第６条により会長が進行　）

【事務局説明】

防府市審議会等の設置及び運営に関する要綱第６条の規定により本検討会議を公開し、要

約した会議録を公表する。

――― 異議なし ―――

議事　（１）農福連携事業について

【事務局説明】

防府市農福連携検討会議について資料を基に説明　資料１

（ア）国の農福連携等推進ビジョンと取組事例について資料を基に説明　資料２

（イ）県の農福連携マルシェ開催事業とモデル事業について資料を基に説明　資料３

（ウ）市の農福連携モデル事業について資料を基に説明　資料４

――― 質問なし ―――

（エ）意見交換

【委員意見】

（Ａ委員）

今現在、当事業所では農業に取り組んでいない。以前農業に取組む機会があったが、農作業が不定期で当日の急な依頼やキャンセルにメンバーをそろえることができなかったことが、長く続かなかった理由ではないかと思う。

最近の障害者就労支援施設の流れとして、働ける方は一般就労へと進まれている。安定して働き続けられない方が増えていたり、利用者の入れ替えも進んでいたりすることが当事業所としての課題である。

また、今回、農福連携の推進に向けて、農業現場での高齢化による担い手不足と障害者の収入面を含めた生活の質の向上との連携になるが、それぞれの求めるニーズ、価値が一致しないと、そのときだけの協力になってしまうので、よく検討していく必要がある。

また、高齢者も含めて、生きがいで農業に携わっていく部分もあるが、特に障害者就労支援施設は、利用者にどれだけ高い工賃が払えるかということが事業を進める中での一つの課題となる。生きがいの部分と生産性の部分については、切り離して連携をしていくことが大切ではないか。

（Ｂ委員）

障害者就労支援事業所については、国の方針として、高い工賃を支払う事業所の評価を高くするという方向性もあるので、生きがいと生産性を区別して進めていくことはＡ委員に非常に同感である。

我々の事業所は現に農業に取り組んでいることもあり、今回の検討会議に非常に期待感を持っている。

一般就労という視点では、農業者との付き合いの中で、理解が進んできて、雇用の検討に入った利用者もいる。

障害への理解については、当事業所の利用者は、特別支援学校の卒業生など、健常の方と

触れ合う機会が少ない方が多い。また、例えば精神障害の方には、病状が発症して、色々なことを起こしてしまい家族や周りの人たちが離れていくといった経験により、ネガティブなとらえ方をされたり、自分のこともネガティブにとらえている方もいる。農業を通じて、「こんなこともできるんだ」とか、農業という共通のツールを一緒に取り組むことで理解することが、国のビジョンの「共生」というところに非常に効果があるのではないかと日々感じている。

また、近隣農家でいえば、高齢化が非常に進んでおり、昨日も急な作業依頼があった。自分たちの仕事を止めて作業に行くこともあるので、スケジュールや、そのやりとりをどう進めていくのかということは、課題である。

この機会を通じて防府市の農業がどのように進んでいるのか、どのような方向に行きたいのか、どのような課題があるのかを、まず知るという姿勢で、参加したい。

（Ｃ委員）

当事業所では、小さい庭で家庭菜園程度の野菜づくりや、花を育てることを利用者と一緒に機能訓練で行っている。

ただし、デイサービスであるため、主に入浴が中心で、作業時間は短時間（30 分くらい）である。また、真夏など季節によっては、熱中症等の問題や、要支援の方から要介護の認定の方がどれだけ農業に参加できるかというところもあり、一部の方しか作業に取り組んでいない。

その為、防府市で年間を通じて農業と高齢者がどのように関わっていけるのか、また農業では農地がたくさん余っているということも聞いている。今コロナ禍で外出がなかなか出来ないが、そこに出かけて行き、何か作業するとか、利用者がやりがいであったり、生きがいであったり、役割が持てればと考えているので、検討していきたいと考えている。

（Ｄ委員）

当事業所では、室内で入浴や食事、排泄のようなサービスを提供する通常のデイサービスとは違う、「働く」をメインにしたプロジェクトをデイサービスで実施している。60 代、70 代の利用者も増えており、まだ働きたいという気持ちを持たれている方も多いので、体がしっかり動く方をメインに、「働く」ということを提供している。

色々な仕事の一環で、畑も借りてやってはいる。畑以外にも民家や一般の家庭の草取りに、利用者と一緒に参加しているが、認知症や高齢ということで、体力の問題であったり、続けて作業することができなかったりという問題点も多数抱えている。

農福連携で、例えば納期や期限などに関してお応えできるのか、高齢者の体力や、精神状態も含めてどのようにマッチングできるのか心配ではあるが、どんどんやっていきたいという思いはあるので、皆さんの意見をいろいろ聞きながら進めていければよい。

（Ｅ委員）

今の山口県の農業従事者の平均年齢は 73 歳で、日本一高齢と言われており、高齢で農業が

できないとういことで、水田農家は毎年減っている。農地を手放す、担い手や後継者がいないという状況で、今から 14～15 年前に山口県は積極的に農事組合法人を立ち上げる活動を行い、今、県では 290 ぐらいの農事組合法人が設立されている。規模的には、山口県は中山間が多いので、大体 25～30 ヘクタールである。100 ヘクタール以上の農地で大規模経営する法人もあるが、それはごく一部であり、大半の農事組合法人が 30 ヘクタール程度で、どこも後継者不足で大変苦労しいてる。

現に私どもの法人も、平均年齢 77 歳で、一番の課題はどのようにして後継者を見つけるかということ、直近の問題は働き手をどのようにして確保するかということである。

そこで、今、やまぐち農業労働力確保推進協議会（ＪＡが実施）が農業専門の求人サイトを開設しているが、関係会議等で、障害者施設や高齢者施設の方からの応募はなかったと聞いている。現在、常用雇用の求人が出ているが、応募はない。そのあたりが今後の課題かと思う。

農業者の視点では、農福連携ができる施設とのマッチングについて、まずどこに連絡したらよいのかわからない。農業者に対するＰＲもかなり必要ではないかと思う。マッチングについては、ＪＡの窓口が一番良いと思う。農家とＪＡの繋がりは大きく、多くの農家はＪＡの組合員である。まずはＪＡに相談し、ＪＡが間を持つというようなことが大事なのではないか。

生きがいと生産性という問題で、農業者は、障害者や高齢者にどの程度の作業をしてもらえるのかわからない。水稲や麦の作業など土地利用型農業は、機械化、省力化になっているが、農業は非常に作業が多様で、選別や定植、移植など手作業も多くある。それをどのような形でうまくつなぐのか、周知する方法も考えておかないと、何を相談してよいのか、作業の委託期間や時間もどのようにしていくのかわからない。

また、お互いがＷＩＮ-ＷＩＮの関係にならないとうまくいかない。長続きはしない。

農業の現場の現状も含めて、今後どのようにしたらよいのか、またいろいろと皆さんの意見も聞きたい。

（Ｆ委員）

今、ＪＡの直売所に、障害者就労支援施設から、工芸品を出展していただいている。ＪＡとしても、生産者が作られたものを少しでも披露できる場所を今後とも提供し、また、そういった場は広げていきたい。

今、農業の現場は非常に高齢化が進んでおり、人手不足の状態になっている。先ほども、Ｅ委員が言われたが、農業者の人手不足や、作業のニーズを少しでも細かく汲み上げ、働き手には、どのような作業をしてもらえるかを細かく聞き、それをつなぐ役割がＪＡの役割ではないかと、私個人として思っているので、この会議の中で皆さんの知恵を借りながら、協議していきたい。

（Ｇ委員）

資料にある、花木センターでのモデル事業に参加したが、最初に花木センター側から、ど

の程度の作業ができるのかという話があったので、細かく作業を聞いて、事業所でメンバーを選抜して作業を行った。その為、作業について、花木センターからはよくできていたというコメントをいただいているが、当事業所の利用者、障害者全員ができるわけではないということは御理解いただきたい。

利用者がどこまでできるのかということは、事業所が一番わかっているので、作業内容に応じメンバーを調整するが、Ａ委員とＢ委員が言われたように、不定期なスケジュールは調整が難しい。

当事業所の事情で言うと、作業時間は午前 10 時から 12 時前まで、午後 1 時から 3 時前までとなるが、事業所で昼食を提供しており（事業所に）戻って食事をするため、往復時間を考えると、午前 1 時間、午後 1 時間から 1 時間半程度しか作業ができない。

また、先ほどのＡ委員と同様に、先日地域の農家から野菜の収穫の依頼があったが、農作物の収穫はその日の朝に農作物の様子を見て行うため作業日が定まらない。収穫日が日曜日であれば、事業所自体が休みなので作業できない。そのようなところがスケジュールのマッチングの難しさであると思う。

しかしながら、色々な取組のなかでマッチングができれば、少しでも高い工賃を利用者に払いたいので、仕事をする場としてあれば、ぜひ参加したいと思っている。

――― 質疑・応答 ―――

（Ｂ委員）

営農法人との受託ついて、スケジュール管理、納期、どこまでできるのかという話は最初にあった。

スケジュールに関しては、最初は、週に 2 回、曜日を決めて行くことで、仕事の確保をお願いした。これは、農業者の規模の問題もあると思う。

どこまでできるのかということに関しては、最初は草取りからスタートした。その後、実際に作業するメンバーの様子を見てもらい、今では 20 ぐらいの作業メニューをこなせるようになってきている。これは、障害特性というところもあると思うが、集中力と持続性、繰り返しすることでできるようになる。

最初に定期でお願いした仕事の確保に関しては、賃金の交渉もしながらお願いしたということを思い出したので発言した。

議事　（２）その他について

【事務局説明】

次回の検討会議の日程について

２月に第２回農福連携検討会議の開催を予定している。日程は決まり次第連絡する。

次回は、防府市の農福連携をどのように進めていくのか、協議を進める。

都市計画課からの情報提供

都市計画課では緑化推進の事業として、市内の小学校で、児童のデザインした花壇を地域

の方の協力も得ながら作成する「ゆめはな開花プロジェクト」を行っており、花壇に植える花苗を柳井フラワーランドから提供いただいている。花苗の提供に係るやり取りの中で、柳井フラワーランドから、花苗を提供するだけでなく、これからも連携をいろいろと進めていきたい。例えば、花苗を柳井フラワーランドから花苗を提供するにあたり、その育成について、花壇をこれから育てていく地域の方等に指導していくこともできるという提案があったので農福連携の参考に情報提供する。

――― 質問なし ―――

閉会